２０２４年度　事業報告

●公益目的事業

Ⅰ ボウリングを通して、スポーツへの参加意欲を高める事業（公益目的事業１）

１．日本商工会議所会頭杯争奪「第５６回ＢＰＡＪ全国ボウリング競技大会 Supported by オロナミンＣ」の主催

・主　管　福岡県公認ボウリング場協会

・期　間　２０２４年6月１日（土）～２日（日）

・会　場　桃園シティボウル・青山エースレーン
（都道府県対抗４人チームの部・スペシャルオリンピックス）
折尾スターレーン（ダブルスの部）

・参加数　都道府県対抗４チーム戦の部　５２チーム（２０８名）
ダブルスの部　３２チーム（６４名）

２．「いい夫婦の日・記念トーナメント部門」

経済産業省及び公益財団法人日本生産性本部の後援で実施された、「１１．２２いい夫婦の日・第２５回キャンペーン」に参画し、全国の加盟センターで「いい夫婦の日・記念トーナメント部門」を実施した。

・参加センター　１６２　　参加チーム数　２，５２０チーム（５，０４０人）

３．「オリンピック・パラリンピック」へのボウリング種目採用の働きかけ

Ⅱ 日本ボウリング史料館の設置・運営事業（公益目的事業２）

当協会設立以来収集した約１６０年にわたる歴史を持つわが国のボウリングの歴史、文化、仕組み等ボウリングに関する様々な資料、機器等を、「日本ボウリング史料館」として常設展示、運営を行っている。書籍は協会事務局（東京都）の一角に、その他の展示品はＳＴＡＲＬＩＫＥ ＢＯＷＬ（茨城県）の一部を賃借して展示した。また、協会ホームページ上で「ボウリング ミュージアム（Ｗｅｂ史料館）」を運営した。

Ⅲ 児童・生徒の健全育成事業（公益目的事業３）

コミュニケーションを深め、家族との絆を強めるスポーツであるボウリングを通して、児童・生徒にスポーツの楽しさを実感できるようにするとともに、安全な時間と場所を提供することを目的とする活動を行った。

１．「ジュニアボウリング教室」の主催

（１）ＢＰＡＪ・ＪＰＢＡ共催、スポーツ庁後援「２０２４年度 夏休み全国ジュニアボウリング教室」

・開催センター　４０センター

（２）ＢＰＡＪ・ＪＰＢＡ共催「２０２４年度 冬休み全国ジュニアボウリング教室」
・開催センター　１０センター
（３）ＢＰＡＪ・ＪＰＢＡ共催「２０２４年度 春休み全国ジュニアボウリング教室」
・開催センター　１４センター

２．ジュニア開放レーンの推進

３．「ミニ・ボウリング機」の普及

機器の経年劣化にともない、年度末に処分を行った。

４．「こども１１０番のボウリング場」の推進

Ⅳ．　福祉活動事業（公益目的事業４）

１．「第５６回宮様チャリティーボウリング大会」の主催
・主　　管　関東ボウリング場協会
・協　　力　社会福祉法人友愛十字会、公益社団法人日本プロボウリング協会、
公益財団法人ＪＡＰＡＮ ＢＯＷＬＩＮＧ、日本ボウラーズ連盟、
全国実業団ボウリング連盟
・期　　間　２０２４年１１月２３日（土･祝）～２４日（日）
・会　　場　品川プリンスホテルボウリングセンター
・参 加 数　一般男子の部 １９２名、一般女子の部 ７１名
障害者男子の部 ６２名、障害者女子の部 １６名　＜合計３４１名＞

２．「ＡＥＤ（自動体外式除細動器)」設置の推進

３．幼児、高齢者、障害者への「簡易ボウリングキット」寄贈・貸し出し

４．「メタボリックシンドローム対策」推進事業
全国の加盟センターで開催する「健康ボウリング教室」を主催するなど、国民の健康増進に寄与した。

５．「イメージＣＭ動画」の制作
ボウリングの健康なイメージを広報するとともに、コミュニケーション作りのツールとしての活用を望み、会員センターが著作権フリーで使用できる、新たなイメージＣＭ動画の制作を行った。

６．「ボウリングを活かした健康づくり」リーフレット（リメイク版）の制作配布
２０１５年にボウリングの広報ツールとして制作した「ボウリングを活かした健康づくり」のリーフレットのリメイク版を制作し、会員センターへ配布を行った。

Ⅴ．高齢者福祉活動事業（公益目的事業５）

高齢化社会が急速に進展する現在、高齢者の健康増進、身体機能の強化は社会の極めて重要な課題であり、高齢者の運動能力を向上させるために、スポーツへの参加意識を高めることを目的とした活動を行った。

１．長寿ボウラー番付の発表

「令和６年度全国長寿ボウラー番付」

・男性：８０歳以上　４，０３０名

・女性：７５歳以上　５，４６２名　＜合計９，４９２名＞

・夫婦：合計１５０歳以上　７６７組・１，５３４名

番付ポスターと広報資料はホームページ上にアップした。ポスターには警察庁・都道府県警察の「振り込め詐欺撲滅対策」への協力として、「標語」の掲載を行った。

２．ボウリングを通じての高齢者の運動能力向上に関する普及啓発

Ⅵ．ボウリング関係団体の公益目的活動への参加と支援事業（公益目的事業６）

ボウリングに関係する団体は、それぞれが公益を目的とした活動を実施しており、当協会はそれら関係団体が実施する公益目的事業のうち、当協会活動の趣旨に適合する事業であり、下記関係団体が実施する事業に積極的に参加し支援した。

・日本ボウリング機構（ＪＢＯ）

・公益社団法人日本プロボウリング協会（ＪＰＢＡ）

・公益財団法人ＪＡＰＡＮ ＢＯＷＬＩＮＧ（ＪＢ）

・日本ボウラーズ連盟（ＮＢＦ）

・全国実業団ボウリング連盟（ＡＢＢＦ）

・ジャパンレディースボウリングクラブ（ＪＬＢＣ）

・公益財団法人スペシャルオリンピックス日本（Ｓ．Ｏ．日本）

●その他の事業（相互扶助事業）

Ⅶ．その他の事業（相互扶助事業）（その他事業１）

１．全国ネット・テレビ放映の実現

２．「ボウリングの日キャンペーン」の実施

（１）江崎グリコ(株)との共同主催により、「家族ボウリングでハッピースコアＵＰ！キャンペーン」をテーマに、プレゼント・キャンペーンを全国の加盟センターで実施した。

（２）「小学生以下のジュニア無料キャンペーン」

６月２２日（木）・ボウリングの日に、小学生以下のジュニアを無料対応するキャンペーンについて、時間帯もゲーム数も企業、センター、場協会の判断で任意にて実施した。

●管理部門

Ⅷ．管理部門

１．会員の動向

（１）会員企業数、会員センター数・レーン数及び加盟率

	２０２３年度期末 （令和６年３月３１日）	２０２４年度期末 （令和７年３月３１日）
会員企業数	２１８　社	２１２　社

区　　分	２０２３年度末 （令和６年３月３１日）		２０２４年度末 （令和７年３月３１日）	
	センター数	レーン数	センター数	レーン数
加　　盟	３３９	１０，２４６	３２７	９，９１２
未　加　盟 （内付帯施設など）	３１６ （１３）	８，５９８ （８８）	２９７ （１３）	８，０６２ （８８）
合　　計	６５５	１８，８４４	６２４	１７，９７４
加　盟　率	５１．８％	５４．３７％	５２．４％	５５．１％

（２）令和７年３月３１日現在の賛助会員数　２社

２．総会の開催

３．理事会の開催

４．総務委員会の開催

５．事業委員会の開催

６．令和７年賀詞交歓会の開催

７．日本ボウリング機構（略称：ＪＢＯ）の活動

８．各団体との打ち合わせ

９．ボウリング発祥記念碑の維持管理

１０．表彰規程による表彰の実施

１１．その他の組織団体への加盟・協調